

第6学年2組 防災教育活動指導案

平成16年5月31日 第3時限 6年2組教室 指導者 黒柳 賢司

1 単 元 「いざと言うときのために」

2 目 標

- (1) 大地震が起きた時の安全な行動の仕方を理解することができる。
- (2) 地域の防災対策や家庭の防災体制について関心を持ち、より安全な暮らし方を考えることができる。

3 単元にかける願い

本校は昨年度より防災教育に本格的に取り組み、その集大成として「花小防災フェスタ2003」を実施した。本学級の児童も、その中で救急法を学んだり、非常食体験をして防災教育に興味を示すようになり、本年度も継続的に取り組むことによって、防災の実践力を高めたいと考えている。

愛知県防災対策室は5月18日に「危険度予測マップ」を発表した。これによると本校学区は県内でも特に危険度が高い地域であることがわかった。そこで、本年度は、まず、自分たちの地域の危険性を再認識する場面からスタートし、そこから、「自分たちのできること、家庭での防災対策」などを考える学習計画を考えた。また、学校での学習を地域へ広めるため、毎時間活用する学習カードの中に「私たちからの提言」のコーナーを作り、学校での防災が家庭・地域に広がっていくことを願っている。

さらに、本学級の保護者の中に、全日本防災連絡協議会の委員がみえ、その専門家の協力を得ることによって、誰にでも簡単にできる防災方法を体験させ、防災に対する意欲をより高めるとともに、実践力を身につけさせたいと考えている。

4 学習計画（11時間完了）

- (1) 避難訓練・・・・・・・・・・・・・・・・・・（1時間）
- (2) 我が家の防災対策を考えよう・・・・・・・・・・（2時間）本時1／2
- (3) 避難訓練・・・・・・・・・・・・・・・・・・（1時間）
- (4) 「花小防災フェスタ2004」・・・・・・・・・・（6時間）
- (5) 学習のまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・（1時間）

5 本時の学習

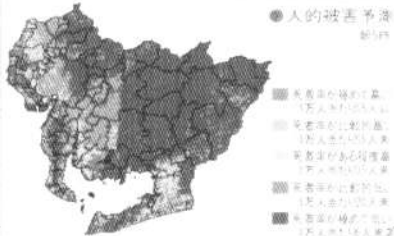
(1) 目 標

- ・「危険度予想マップ」から自分たちの地域が危険であることを理解し、防災意識を高めることができる。
- ・家具の転倒防止の工夫を体感し、身近なケガの予防などより安全な暮らしのために、何をすべきか考えることができる。

(2) 準備

- ・教師 ビデオプロジェクター 学習カード
- ・地域の先生 震災のビデオ 家具の模型とゲルマット（転倒防止用品）

(3) 展開

時間	活動内容	授業のポイント
1 5	・はじめのあいさつ ・学習カードの配布 発問①この地図、なに？ ・予想意見を書き、発言する	 「危険度予想マップ」から西尾市の様子をつかみ地震に対する危機感を持つことができる。
2 9 2	・消防署、宮口さんの紹介 ・地震災害のビデオ視聴（2～3分） ・テーマ「倒壊の恐怖と西尾地区の危険度」のお話を聞く ・質問タイム（2～3分）→発言の場面 発問②「倒壊の恐怖と西尾地区の危険度」のお話を聞いた感想をまとめよう ・意見・感想を書く→発言の場面	消防署の方から、地震災害、特に家屋の倒壊や家具の転倒による被害・ケガの実際を聞き、事前の対策が必要であることを理解することができる。
20	・専門家、村松さんの紹介 ・家具などの転倒防止の工夫について、お話を聞く ※途中、自由に質問してもよい ①ペットボトルによる実演 ②パネルなどを使って全体の説明 ③転倒防止の体験学習（ゲルマットによる家具のずれ防止）	身近なケガの予防として家具の固定が有効であることを理解し、その一例としてゲルマットの効果を実体験することができる。
6	発問③「僕たち、私たちからの提言」を書こう ・保護者の方々へ、各家庭でもできる防災対策案を、文章にまとめる 「いざと言うときに、今できることは」 「家具の転倒などでケガをしないようにするためには」 「こんな事をしてほしい。こうしたら安全だよ」 ・防災提言を書く→発表の場面 ・お礼の言葉と終わりのあいさつ	高まった防災意識をもとに、自分の家の現状を振り返り、より安全なくらしのため、今できること、すべきことをまとめ、家族に伝えることができる。

(4) 評価

- ・「危険度予想マップ」より地震に対する危機感を持ち、高まった防災意識をもとに、より安全なくらしのために、何をすべきか考えることができる。（発表の様子・学習カード）